

# Scramble Shot

世界に行ってしまうヴィニツカヤをオーケストラが呼び戻す。フェドセーエフの音楽の揺らし方が、完璧なロシアの匂いを実現させ、ロシア魂が炸裂するように弾き終えた彼らは総立ちの聴衆に迎えられた。

翌日のマチネは、ロシア・ヴォシビルスクの「シベリア・ヴィルトゥオーゾ」が民族音楽でクリスマスを祝った。ロシアでは民族音楽もクラシックと同じように音楽大学で学べるそうで、マンドリンのようなドムラ奏者で当団代表のアンドレイ・クガエフスキーも音大でドムラ以外に琴も教え、日本語も操る親日家だ。

最後のソワレは、モスクワの聖ウラディミール教会の12人の聖歌隊の宗教曲と伝統的な民謡とのプログラムだった。ソリストはオペラ歌手顔負けの立派な声で聴衆を満足させた。

今年は「日本におけるロシア年」だということで、日本でもこのようなハイレベルな日露文化交流を期待したい。

(中 東生)



クリスマス・コンサートでのフェドセーエフ。ロシア正教、ギリシャ正教等の正教会では、ユリウス暦によるため、1月7日をクリスマスとして祝う ©中東生

## Concert チューリヒでフェドセーエフ 指揮の「ロシアのクリスマス」

正教会のクリスマスにあたる1月6、7日に、「ロシアのクリスマス」と名付けられたコンサート・シリーズが、チューリヒの聖パウロ協会で開催された。

イヴにあたる6日は、世界中が知っているクラシック音楽のレパートリーでの幕開けだったが、ウラディーミール・フェドセーエフがヴィンタートゥール・ムジークコレギウムから引き出した「ロシアの音」に驚かされた。スクリャーピン《夢》ですっかり聴衆を夢見心地にした後、ラフマニノフ「ピアノ協奏曲第3番」では、アンナ・ヴィニツカヤがパワーを倍増させた。語るように始まり、オーケストラと対話しながら、そのうちに別の